INDEN MUSEUM

印傳を学ぼう！ No,1

おなまえ

夏休み自由研究プロジェクト

印傳博物館

1 甲州印伝って何だろう？

甲州印伝とは？

鹿の革に漆などで模様を付けた工芸品です。お財布やかばんを作っています。
山梨は自然が豊かで、鹿や漆もたくさんとれたことから産地となりました。
甲州印伝は経済産業大臣指定の伝統的工芸品です。

印傳屋 上原勇七とは？

印傳屋は現在、14代が上原勇七を名乗り1582年（天正10年）に創業したといわれています。
創業当時は、鎧兜に使われる革を作っていました。

印傳博物館

印傳博物館では印傳作品・鹿革工芸品・漆工芸品を中心に、約1500点を収蔵し、テーマに合わせた展示を行っています。

2 印傳の製造工程

製造工程 → → → → → → → → 印傳の品物が出来るまで

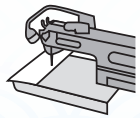
01 染色
1枚の大きな白い鹿の革を黒・紺・紫色等に染めます。

※燻技法では行いません。

02 荒断ち
革を無駄にしないように角キズを避けて、品物に合わせたおよその大きさに切ります。

03 模様付け
それぞれの技法を用いて革に模様を付けます。

04 裁断・縫製
再度、正確な大きさに革を裁断します。
革の色、模様の位置や凸凹に注意して縫います。



05 仕上げ
金具やファスナー、型くずれ防止の芯等を付けて製品化します。

06 検品
品物の仕上がりを確認します。

印傳をつくる３つの技法

燻 技法

鹿革をタイコと呼ばれる筒に貼り、下にある竈で藁を焚きます。出てくる白い煙で茶色の色や模様を出します。

漆付 技法

鹿革の上にとんぼ等の模様が彫ってある型紙をのせます。その上からヘラで漆をのせ、型紙から革をはがすと模様が付いています。

更紗 技法

型紙を使って、一色から多色の模様を付けます。色ごとに型紙を替えて、顔料を乗せていきます。この作業を繰り返すことにより、華やかな色合いの模様となります。

INDEN MUSEUM

印傳を学ぼう！ No,2

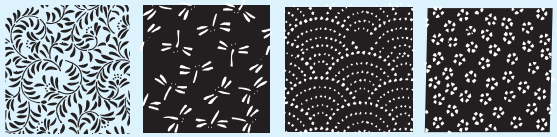
おなまえ

夏休み自由研究プロジェクト

印傳博物館

3 日本の伝統模様

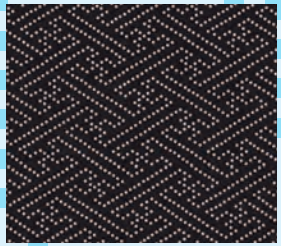
日本には四季があり、その変化を私たちは自然の風物で感じながら生活しています。
模様はその美意識の表れであり、祈りや願いが込められているものがたくさんあります。



4 模様クイズ

次の模様の名前は何でしょう。下から選ぼう！（正解と思う赤丸をつないでみよう）

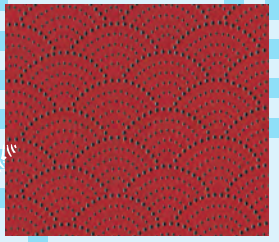
① 吉祥や正義や道徳を表す卍（まんじ）の形をくずして連続させた模様です。



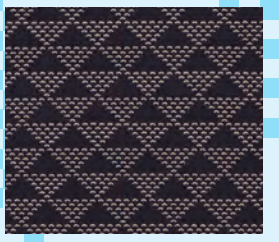
② 生命力が強いつるが、広がっていく様子から、発展や繁栄の模様とされました。

③ 麻のようにまっすぐすくすく育つようにと、赤ちゃんの着物に使いました。

④ おだやかな波の様子から平和な毎日が続くようにと願っています。



⑤ 魚やヘビのうろこに見立てて身を守り、厄除けの意味で使われました。



- うろこもよう 鱗模様
- あさはもよう 麻の葉模様
- せいがいはもよう 青海波模様
- さやがたもよう 紗綾形模様
- からくさもよう 唐草模様

答え ①紗綾形模様 ②唐草模様 ③麻の葉模様 ④青海波模様 ⑤鱗模様

5 印傳博物館の古典品

巾　着
きん　ちゃく

袋物の一つです。お金や薬、お守りなどを入れて腰の帯に提げました。

合切袋
がっさいぶくろ

身の回りのものを一切合切入れることから名前がついたとされる縦長の袋です。

莨　入
たばこいれ

刻んだたばこときせるを入れて腰に提げて持ち歩きました。

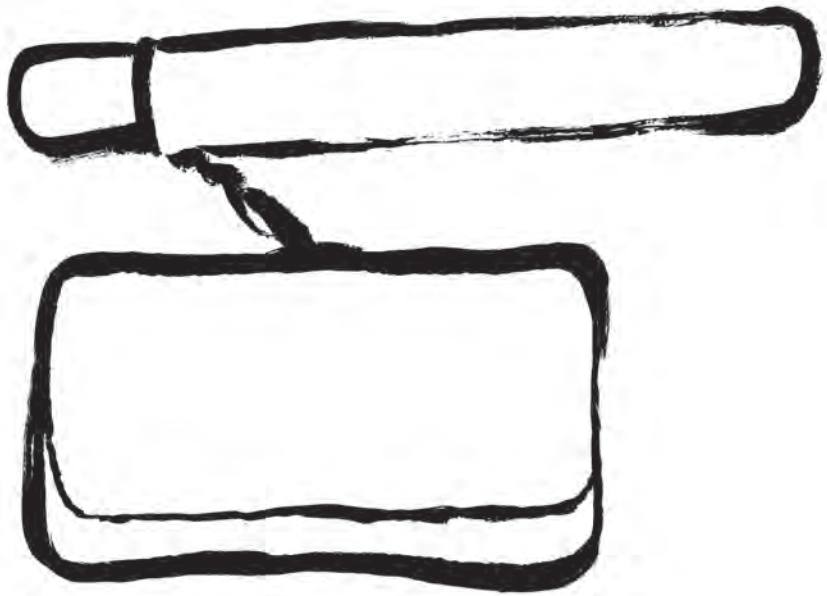
三ツ巻財布
みつまきさいふ

三つに折り、紐で巻いて中身がでないようにしています。

※わかったことをメモしよう。

印傳を学ぼう！ No,4

おなまえ

6 印傳博物館で調べたことを書いてみよう！

7 莨人の模様を描いてみよう！